

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520906

研究課題名(和文) 東日本大震災後の宗教者－被災者関係の変化と超宗派ボランティア「心の相談室」

研究課題名(英文) The changes in relationships between disaster survivors and religious leaders in the aftermath of the 2011 Tohoku earthquake and tsunami

研究代表者

大村 哲夫(OHMURA, Tetsuo)

東北大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：30620281

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：東日本大震災は、被災者と宗教者の関係を大きく変えた。震災前の寺檀関係の惰性とも言えるべき状況から、震災を契機に宗教者によるボランティア活動が行われ、宗教の社会的役割が見直されることとなった。本研究では、震災直後に開設された超宗派の宗教者と医療者、研究者による「心の相談室」の活動を中心に、被災者と宗教者の関係を調査し、この活動が宗派を超えたケアを行う宗教者「臨床宗教師」に結実する過程を分析した。

研究成果の概要(英文)：The 2011 Tohoku earthquake and tsunami noticeably changed the relationships between disaster survivors and religious leaders. Before 2011 the relationships had been inert, but after that the disaster provided possibilities for volunteer activities, that is why the social role of religion had to be reviewed.

The author of this research has studied the relationships between the disaster survivors and religious leaders, focusing on the activity of Kokoro-no sodanshitsu - the counseling room, operated by religious leaders of different beliefs, medical staff and researchers, and provided the analysis of how this activity has led to the appearance of rinshoshukyoshi - the religious leaders, who provide cross-religious care.

研究分野：宗教心理学，臨床死生学，宗教学，臨床心理学

キーワード：東日本大震災 宗教者 被災者 心の相談室 臨床宗教師 宗教の社会的役割 こころのケア

1. 研究開始当初の背景

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、これまでの人びとと宗教者の関係を大きく変化させることになった。

主な被災地が東北地方の太平洋沿岸部と広汎に亘るため、多くの宗教施設も被害を受けた。その一方で寺社や教会施設が避難所となり、炊き出しが行われ、全国の宗教団体からも支援が行われるなど、宗教者によるボランティア活動が展開された。こうした宗教者の活動はマスメディアを通して全国に紹介され、宗教者の社会的役割について認識を新にすることになった。このことは、阪神淡路大震災においては、宗教の支援活動がほとんど報じられていなかったことと対照的であった。

阪神淡路大震災当時は、オウム真理教によるサリン事件の影響を受けて人びとの宗教への警戒心が強く、その後さらに人びとの宗教離れが進んだと考えられていた。しかし今回の震災では、宗教者による試行錯誤の支援活動と、異なる宗教が協力して活動を行う宗教間協力が見られ、宗教者側も布教の自粛などの対応をとったため、被災者もこれを肯定的に受け入れているようにみえた。こうした被災者と宗教者との関係は、一過性のものではなく継続して深化していった。そのため当初慎重であったマスメディアも徐々に宗教者による支援活動を報じるようになったものと考えられる。

震災直後に結成された超宗派のボランティア組織「心の相談室」は、仙台市斎場での宗教者による相談活動から始まり、医療者・研究者と共に支援活動を展開し、特に避難所や仮設住宅といった「公共空間」における活動について具体的な方策を摸索していた。

研究代表者は、被災地の研究機関においてこれらの活動を目の当たりにし、こうした活動を通して宗教者がどのように宗教の社会的役割を摸索していくのか、被災者がそれをどう受け止めていくのか、今後の宗教はどのように変化していくのか、に関心を寄せたのである。

2. 研究の目的

(1) 被災地における宗教者と被災者の関係に注目し、現代における宗教の社会的役割を明らかにする。

(2) 被災者が、宗教者をどのように受容し、宗教・宗教者への意識の変化が生じたのかどうかを明らかにする。

(3) 超宗派によるボランティア組織「心の相談室」の実践を通して、宗教間協力の実態と「公共空間」における活動の展開に注目し観察・調査することで、その変化を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 被災地における研究拠点としての東北大学の利点を踏まえ、宗教者によるボランテ

ィア活動が行われている現場に入り、参与観察によるフィールド・ワークを行う。

(2) これまでの大学と地域との信頼関係を生かし、自治体や学校などを対象に追悼・慰霊行事等についての質問紙調査を行う。

(3) 超宗派ボランティア「心の相談室」の活動への参与観察を行い、宗教間協力の実態を調査する。

4. 研究成果

(1) 震災後4年を経て多くの震災支援ボランティアが撤退していく中、「心の相談室」の活動は、単に活動を継続するだけではなく深化発展し、2012年4月には東北大学大学院文学研究科に「実践宗教学寄附講座」を開設し、同年10月には公共空間で活動する宗教者である日本版チャプレン「臨床宗教師」養成研修を開始した。

養成研修は、仏教やキリスト教、神道、新宗教、イスラームなど各宗派からの参加を得、北は北海道から南は九州まで全国各地から集まった。2014年度末までに6期100名近い修了者を輩出し、現在、全国各地に修了者の支部が結成され、修了後の研鑽と宗教間協力の継続が行われている。すなわち東日本大震災の被災者支援から始まった「心の相談室」活動は、平時においても医療・福祉分野などの公共空間で活動する宗教者の育成を行うに至り、その社会実装も進んでいる。マスメディアの報道も依然として行われており、臨床宗教師については、ほぼ5日に1度は報道されている状況が続いている。NHKが特番を組むなどもあり、臨床宗教師研修の受講希望者がますます増加して東北大学だけでは応じられない状況となった。

宗教的に中立の立場をとる国立大学・東北大学で始まったこの「臨床宗教師運動」は、宗門系大学をも刺激し、2014年には龍谷大学(浄土真宗系)と鶴見大学(曹洞宗系)でコースが設置され、2015年には種智院大学(密教系)、高野山大学(高野山真言宗系)で開設され、2016年度以降もキリスト教系などさらにいくつかの大学で開設されていく予定である。

このように当初の予想をはるかに超えて発展する過程を目の当たりに調査することができ、宗教者と被災者の関係に留まらず、現代における宗教・宗教者の社会的役割とその可能性について貴重な示唆を得ることができた。

(2) 公共空間における被災者の慰霊という観点から、公立学校における追悼行事、特に「死児への卒業証書授与」について調査を行った。

現在調査は予備的な段階であるが、震災で死亡した幼児・児童・生徒へ卒業証書を授与する行為には法的根拠はなく、教育委員会等による組織的な指導もないものの、校種によっては半数を超える学校で行われているこ

とが分かった。

質問紙調査分析の結果、死児への証書授与は、憲法などの法令で「宗教的活動」が禁止されている公立学校において、これに代わる慰霊的行事として行われていると見えること、この行為には「死児の齢を数える」といった民間信仰の心情が背景に存在していると考えられることなどの示唆を得ることができた。

今後、公立学校における慰霊・追悼行事について更に調査を進めるための基礎的なデータを得ることができた。本調査研究は、新たな科研課題として 2015 年度より進めているところである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

大村 哲夫、「こころのケア・ワーカーとしての宗教者「臨床宗教師」とは何か? : 臨床心理士との比較から」、『東北宗教学』, 査読あり, 第 10 巻, 2014, 1-17

大村 哲夫、「死者が卒業するということ - 東日本大震災における慰霊と癒し - 」, 『文化』, 査読あり, 第 77 巻第 1・2 号, 2013, 26, 32 - 52

大村 哲夫、「生者と死者をつなぐ 絆 - 死者ヴィジョンの意味するもの - 」, 『論集』, 査読あり, 第 39 巻, 2012, 135 - 148

[学会発表](計 15 件)

大村 哲夫、「崇る? それとも護る? カウンセリングにおける霊出現の意味」パネル発表「被災地における心霊体験とその意味について」日本宗教学会第 72 回学術大会, 2014 年 9 月 13 日, 同志社大学

大村 哲夫、「ここは天国だよ - 認知症高齢者の世界と死の受容」日本心理臨床学会第 33 回秋季大会, 2014 年 8 月 24 日, 横浜パシフィコ

大村 哲夫、「災害ボランティアから生まれた「臨床宗教師研修」自主シンポジウム「心理臨床と信仰」日本心理臨床学会第 33 回秋季大会, 2014 年 8 月 23 日, 横浜パシフィコ

大村 哲夫、「高齢社会における「宗教性」学会企画シンポジウム「高齢社会における宗教の意義と問題」日本老年社会学会第 56 回大会, 2014 年 6 月 8 日, 下呂市

大村 哲夫、「学校と慰霊 - 福島県における死者への卒業証書授与の実態から - 」印度学宗教学会第 56 回学術大会, 2014 年 6 月 1 日, 種智院大学

大村 哲夫、「クライアントの「宗教性」を生かした心理カウンセリング: 「霊」をめくって」The 10th Asia-Pacific Congress on Pastoral Care and Counseling(APCPCC) and The 6th Japan Society of Spiritual Care(JSSC), Joint Conference 2013, Japan, 2013 年 9 月 日, 東北大学

大村 哲夫、「死者の「卒業証書」被災した学校における慰霊と癒し」日本宗教学会第 72 回学術大会, 2013 年 9 月 8 日, 國學院大學

大村 哲夫、「「信仰」と「無宗教」の間」日本心理臨床学会第 32 回秋季大会, 2013 年 8 月 25 日, 横浜パシフィコ

大村 哲夫、「絆としての死者ヴィジョン: 終末期における「譫妄」の受容とケア」日本ヒューマン・ケア心理学学会学術集会第 15 回大会, 2013 年 7 月 6 日, 聖路加国際大学

大村 哲夫、「“老年学的な” 看取りとこころのケア - 終末期における抑鬱 (スピリチュアル・ペイン) と譫妄の心理的理解 - 」日本老年社会学会第 55 回学術大会, 2013 年 6 月 6 日, 大阪

大村 哲夫、「死者の「卒業」」印度学宗教学会第 55 回学術大会, 2013 年 6 月 1 日, 駒澤女子大学

大村 哲夫、「心理臨床と信仰 (4) - 東日本大震災における危機と宗教性 - 」日本心理臨床学会第 31 回大会, 2012 年 9 月 14 日, 愛知学院大学

大村 哲夫、「死を通して生を考える心理職養成教育 - 被災地における臨床死生学 - 」日本心理臨床学会第 31 回大会, 2012 年 9 月 14 日, 愛知学院大学

大村 哲夫、「江戸の笑いとう死 - 安永期小咄本の死生観」日本宗教学会第 71 回学術大会, 2012 年 9 月 8 日, 皇學館大学

大村 哲夫、「生者と死者をつなぐ 絆 - 死者ヴィジョンの意味するもの - 」印度学宗教学会第 54 回学術大会, 2012 年 6 月 2 日, 東北福祉大学

[図書](計 2 件)

滝口 俊子監修, 大村 哲夫・佐藤 雅明編著『心理臨床とセラピストの人生 関わり合いのなかの事例研究』pp.3-6, 283-322, 創元社, 2015 年 1 月 21 日

大橋 英寿, 大村 哲夫, 「死生観とメンタルケア」 pp.151-166, 『精神対話論』慶應義塾大学出版会, 2013年3月

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

大村 哲夫 2014「国内の宗教動向」「宗教力」を生かす：震災ボランティアから生まれた「臨床宗教師」 『国際宗教研究所ニュースレター』 81号, pp.8-9, 2014年12月25日

大村 哲夫 2014「読書案内「臨床宗教師」」 『国際宗教研究所ニュースレター』 81号, p.10, 2014年12月25日

大村 哲夫 「被災者の問いは切実」 『中外日報』 2013年6月11日付

大村 哲夫 「慰霊施設のあり方を考える」 『中外日報』 2013年11月9日

大村 哲夫 「死者への卒業証書」論・談 『中外日報』 2013年12月14日

大村 哲夫 「石巻・大川小学校で慰霊法要」 『中外日報』 2014年4月30日付

取材記事「生きる 死で描いた生への執着」映画の旅人 『朝日新聞』 2015年3月28日付

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大村 哲夫 (OHMURA, Tetsuo)

東北大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：30620281

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし